

～パフォーマンス課題の設定に伴うルーブリック作成のためのチェックシート～

作成：神奈川県立光陵高等学校

チェック①は、年間指導計画作成時のチェックリスト
 チェック②③は、単元計画を作成する際に構想(単元デザイン)する場面のチェックリスト。
 チェック④以降は、パフォーマンス課題を設定する際に検討するチェックリスト。
 単元計画を構想する際に、“**一体的に**”検討する。

チェック①(年間指導計画作成のとき)

- 科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」が作成されているか。
- 教科の目標の確認(学習指導要領の「目標」(1)～(3)の確認)と文科省通達の「各教科等の評価の観点及びその趣旨(高等学校及び特別支援学校高等部)」を確認する。次に、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成する。**詳細は、国研作成「参考資料」の第2編を参照。**

チェック②(単元(題材)を構想するとき)

- 「内容のまとめり※(単元(題材))」と「評価の観点」との関係を確認したか。
- ※内容のまとめりについては、学習指導要領や国研作成「参考資料」の第2編を参照。

内容のまとめり	評価の観点
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 (学びに向かう力、人間性等*)	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

★「保健体育」以外は、表記がないため、文言作成の際は、次のように作成する。
 文科省通達の「各教科等の評価の観点及びその趣旨(高等学校及び特別支援学校高等部)」と「学習指導要領」に記載されている各科目「内容」中の【知識・技能】【思考・判断・表現】を踏まえて文言を作成する。なお、「保健体育」は【主体的に学習に取り組む態度】について記載されている。

チェック③(単元の目標設定とその評価規準を設定するとき)

- 単元目標を達成するために評価規準(いわゆる「のりじゅん」)が設定されているか。
- 教師が目指す単元終了時の生徒の姿と評価規準が一致しているか(チェック①②との整合性)。
- 生徒の習熟度と評価規準が著しくずれていないか。
(これまでの学習履歴の確認、可能であれば生徒のレディネスも確認)
- 教員間の共通理解(単元計画の共有)が図れているか。
- 生徒の学習動機が高まる工夫が盛り込まれているか。
(生徒の取組もうとする意識や既習事項とのつながり、生徒自ら設定する課題などかどうか。
また、教師が目指す単元終了時の生徒の姿を伝達した上での生徒の反応などかどうか。など)

評価規準の作成については、「学習指導要領」の各科目「内容」の文末を変更して作成する。
 裏面に、各教科等の文末表現を例示。

次は具体的なパフォーマンス課題を評価するルーブリックを作成するときのチェックリスト

チェック④(パフォーマンス課題を設定するとき)

- 単元の中で習得した知識・技能を活用することができる内容となっているか。
「評価の観点の趣旨」や「単元の評価規準」に即して設定する。
どのタイミングで実施するかも重要。見取る観点の設定(複数の観点を設定することも可能)。

チェック⑤(ルーブリックを作成するときの大前提)

- ルーブリックの尺度のうち、教師が生徒に「到達してほしい」と思われる記述語を作成しているか。
→「概ね満足」のレベルを最初に設定する。その後、上位・下位の記述語を設定する。

チェック⑥(ルーブリックの記述語作成の注意点①「具体的な記述語の作成」)

- ルーブリックの記述語が教員視点ではなく、**生徒視点**になっているか。また、曖昧(抽象的)だったり、長すぎたりしないか。
- ※:根拠をはっきりさせながら、話を深めるためのやり取りがなされる。
- :根拠をはっきりさせながら、話を深めるための発言ができる。

チェック⑦(ルーブリックの記述語作成の注意点②「尺度の明確化」)

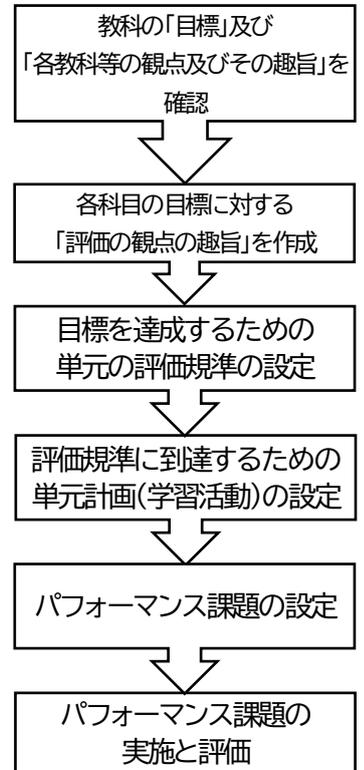
- ルーブリックの記述語が測定可能な“**動詞**”(教員の目に見える「**動作**」)で表されているか。
- ※:根拠をはっきりさせながら意見をいう方法を学習し、話を深める方法を理解することができる。
- :根拠をはっきりさせて自分の意見が言え、話を深めたり、広げたりするための発言ができる。

チェック⑧(ルーブリックの記述語作成の注意点③「パフォーマンスの徴候を盛り込む」)

- パフォーマンスに行動や形跡など、**基準が満たされた状況を具体的に示す特徴**が明記されているか。
例:アイ・コンタクトを取ることができる。文脈に合わせてユーモアを交えて話すことができる。

チェック⑨(パフォーマンス課題を実施するとき)

- 設定したルーブリックを生徒に示している。



【パフォーマンス課題】

学習者が与えられたパフォーマンス課題を解決する過程を評価対象とし、その評価方法としてルーブリックが効果的である。
 パフォーマンス課題とは、「学習者のパフォーマンスによって高次の学力を評価しようとする課題であり、より複雑で現実的な場面や状況で知識・技能を使いこなすことを求める課題」である。授業中に実施することが望ましい。

【知識・技能】

→基礎的・基本的な知識・技能を活用した、概念的な知識を問うパフォーマンス課題。

【思考・判断・表現】

→予め課題を設定し、獲得した知識・技能を活用し、課題解決のために解決策を構想したり、考察したりしたことを、根拠に基づいて論理的に表現することなどを課したパフォーマンス課題。

【主体的に学習に取り組む態度】

→他の観点と一体的に見取る。

評価規準作成時の各観点の文末表現について ～ループブックを作成するときに、文末表現と評価したい事柄があっているか～
 詳細は国研作成「参考資料 第2編」を参照のこと。

教科	知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国語	「～している。」		「～している。」 ※評価規準の冒頭には、「(領域名を入れる)において、～」と明記する。	「～しようとしている。」
数学	「～している。」「～することができる。」		「～することができる。」	「～しようとしている。」
理科	「～理解しているとともに、」 「～を身に付けている。」		「～科学的に考察し、表現している。」	「～見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。」
地理・歴史	「～理解している。」	「～身に付けている。」 ※学習指導要領の「内容のまとめ」中に記載があるもののみ。	「～考察(、構想)し、表現している。」 「～探究し、表現している。」	「～を主体的に追究(、解決)しようとしている(地理総合、歴史総合)。」 「～を主体的に追究(探究)しようとしている(地理探究、日本史探究、世界史探究)。」
公民	「～理解している。」	「～している。」 ※学習指導要領の「内容のまとめ」中に記載があるもののみ。	「～考察(、構想)し、表現している。」 ※学習指導要領の「2 内容」の各項目の冒頭に「～着目して」の視点を評価規準の文頭に付す。	【公共】 「よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。」 【倫理】 「人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりしている。」 【政治・経済】 「よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。」
外国語	「～理解している。」	「～身に付けている。」	「～している。」	「～しようとしている。」
音楽	学習内容に応じて(ア)、(イ)、(ウ)から一つ以上を適切に選択して置き換える。 「～している。」		【A 表現】 アの文末を「考え、」に変更して文頭におき、「～している。」 【B 鑑賞】 アの文末を「考えるとともに、」に変更して文頭に置き、事項アの「次の(ア)から(ウ)まで」の部分に、学習内容等に応じて(ア)、(イ)、(ウ)から一つ以上を適切に選択して置き換え、文末を「～聴いている。」	「～の学習活動に取り組もうとしている。」
美術	「～理解している。」	【A 表現】のみ 「～している。」 独立した【B 鑑賞】の単元では、内容のまとめりごとの評価規準として位置付ける必要はない。	「～している。」	「～の学習活動に取り組もうとしている。」
書道	「～について理解している。」	【A 表現】のみ 「～をするための技能を身に付け、表している。」 独立した【B 鑑賞】の単元では、内容のまとめりごとの評価規準として位置付ける必要はない。	「～について構想し工夫している。」	「～の学習活動に取り組もうとしている。」
保健体育	「～について理解している。」	「～できる。」	「～課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えている。」	「～している。」
家庭	「～について理解している。」 「～について理解を深めている。」	「～の技能を身に付けている。」 「～の情報収集・整理ができる。」	「～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。」	「様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、～について、課題の解決に主体的に取り組んだり(①粘り強さ)、振り返って改善したり(②自己調整)して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている(③実践しようとする態度)。」
情報	「～について(を)理解している。」	「～ができる技能を身に付けている。」	「～している。」 「～することができる。」	「～しようとしている。」
総合的な探究の時間	「～理解している。」		「～している。」	「～しようとしている。」

ルーブリックを設定するための検討シート

パフォーマンス課題の内容が先か、ルーブリックの記述語が先か？
→どちらが先でもよい。
相互補完的に課題が完成することも考えられる。

事前準備:

「評価の観点の趣旨」、「科目の目標」、「単元の目標」、「単元の評価規準」を確認

①パフォーマンス課題で見取りたい観点

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

②「単元の目標」や「単元の評価規準」、「これまでの学習活動」からどのようなパフォーマンス課題を課すか (習得した知識や技能を活用し、学習者の高次の学力をはかる活動。参考「学習指導要領解説」や「各科目の文末表現」)

③このパフォーマンス課題で「概ね満足」とするレベルはどのようなものか。 (生徒視点、行動、形跡など「概ね満足」の基準が満たされる状況とはどのようなものか具体的に記載する。)

④「概ね満足」の上位にくるレベルとは(十分満足)のレベル

⑤「概ね満足」の下位にくるレベルとは(努力を要する)のレベル

⑥教員間での共有と加除修正

尺度	観点

いくつの観点でみとるか、評価の尺度は何段階にするか、教科・科目、課題の内容によって決める。